

<平成27年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

横浜市立中川西中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 協 力** : 公益財団法人 JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成27年4月～平成28年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 30校程度
- 地 域** : 関東近郊及びJOCパートナー都市の中学校を基本とする
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
 ※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場した経験等を通して、国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を自身の体験をもとに分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に生かせるような学習内容

座学の時間

挨拶（5分）

自己紹介（5分）

オリンピックの話（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



座学での学習内容の
確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験
に基づく「オリンピックの
価値」等について話す



グループ（個人）ワーク
発表も行う



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成28年3月7日 (月)、8日 (火)
- ク ラ ス : 2年8組 (38名)・6組 (40名)
- オリンピアン : 小口 貴久 先生 (リュージュ)
- 授業のながれ : 運動の時間 (4時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・小口先生から簡単に自己紹介をした後、今日の授業ではオリンピックとは何か、どんな意味があるのか学ぼうと目的を確認。
- ・そり競技 (ボブスレー、スケルトン、リュージュ) の滑走姿勢を体験。

3. 主運動



- ①縄くぐり (30秒×2回戦)
- ・3チームに分かれ、長縄を跳ばずにくぐるゲームを実施。

4. まとめ



- ・ルールは必ず守らなくてはいけないが、さらに記録をよくするためにルールの中で何ができるかを考えることが大切だと伝える。

2. 準備体操



- ・ステージ前に2班ずつ1列に並び、ダイナミックストレッチを実施。
- ・小口先生の掛け声の後に、生徒が手を叩き、1回ずつ叩く回数を増やす。「集まれ」と言われたら、直前に手を叩いた回数と同じ人数で手をつないで座る。



- ②ボールを陣地に入れるゲーム (60秒×4回)
- ・ステージ前からスタートし、体育館奥に置いた輪に全てのボールを入れる。
 - ・生徒2名と小口先生が鬼となり、体育館中央ラインをボールを持って越えてきた生徒にタッチする等のルールを設定。



- ・次の座学の時間では、運動の時間を振り返りながら、オリンピックについて学ぼうと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（平成28年3月7日（月）、8日（火）5時限）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認

2. オリンピックの価値を伝える



・オリンピックのイメージを問いかけ、近代オリンピックの復興やオリンピックシンボルに込められた意味を説明。



・オリンピックバリューについて噛み砕いて説明し、小口先生がオリンピック出場の夢を叶えるために実践した「話す、考える、続ける」ことを紹介。
・オリンピックバリューは日常生活でも自然と実践できていることだと伝える。

3. グループワーク



発問①： 運動の時間に実践できていたオリンピックバリューを考えてみよう。

発表①： エクセレンス： 考えて工夫する。 リスペクト： ルールを守る。
フレンドシップ： 相手を思いやる、班で協力した。



発問②： 自分の夢や目標を叶えるために、これからどんなことに取り組んでいきたいか。

発表②： エクセレンス： 一生懸命勉強する。 リスペクト： 人の意見を聞く。
フレンドシップ： 友人を信じる。

4. まとめ



・オリンピックバリューはオリンピックに出場した人だけのものではなく、身近な生活の中にも存在していることを意識することが大切だと伝え、少しずつ実践してほしいと伝える。



・このクラスからも東京2020大会に出場する人や選手以外の形でオリンピックに関わる人がいるかもしれない話し、身近なオリンピックについて改めて考えてほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成28年3月7日 (月)
- ク ラ ス : 2年9組 (39名)
- オリンピアン : 楠田 香穂里 先生 (バスケットボール)
- 授業のながれ: 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・楠田先生から簡単な自己紹介をした後、運動、座学の時間を通して「オリンピックを学ぼう」と目的を確認。

2. 準備体操



・2人1組になって、ペアストレッチとバスケットボールを用いたウォーミングアップを実施。

3. 主運動



ボール運びリレー (全3回戦)

・6班に分かれ、2人1組でボールを体の一部 (腕、背中等) に挟み、スタート地点から10m程先のマーカーを回って戻り、計4往復する早さを競う。



4. まとめ



・座学の時間ではオリンピックやバスケットボール競技について、楠田先生の経験や競技の映像を見ながら説明すると予告して、授業終了。





■授業のながれ：座学の時間（平成28年3月7日（月）6限目）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認



- ・楠田先生が競技を始めたきっかけを紹介。
- ・アテネ大会の映像を見せながら、当時の心境や試合の様子について説明。

2. オリンピックの価値を伝える



- ・近代オリンピックの復興について説明した後、オリンピックバリューについて、楠田先生の経験を交えながら説明。

3. グループワーク



発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：諦めずに努力する、全力で取り組む フレンドシップ：相手を理解して思いやる

リスペクト：ライバルも尊重する、勝っても負けても相手を称える

4. まとめ



- ・オリンピックに出場したからすごいではなく、一生懸命努力した過程が大切であり、このことはオリンピック以外にも当てはまると伝える。

- ・2020年には東京でオリンピックが開催されるため、選手として出場するだけでなく、ボランティアとして関わる等、オリンピックを体験してほしいと話し、授業終了。



- 期 日 : 平成28年3月8日 (火)
- ク ラ ス : 2年7組 (39名)
- オリンピアン : 石野 枝里子 先生 (スケート・スピードスケート)
- 授業のながれ: 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・石野先生から簡単な自己紹介をした後、運動、座学の時間を通して「全力で取り組むこと、お互い協力し合うこと、人の話をよく聞くこと」の3つを約束。

2. 準備体操



・各班ごとに整列しダイナミックストレッチをした後、2人1組になって、バスケットボールを用いたウォーミングアップを実施。

3. 主運動



① 八の字跳び (90秒×3回戦)

・3チームに分かれて、90秒間に跳ぶことができた合計回数を競う。
各回終了後に作戦タイムを設ける。



② 大縄跳び

・石野先生も参加し、クラス全員で大縄跳びに挑戦。

4. まとめ



・授業のはじめに話した3つの約束を守れたか確認。



・座学ではさらにオリンピックについて学ぼうと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（平成28年3月8日（火）6限目）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認



- ・映像を見せながら、競技や試合の様子、当時の心境について説明。
- ・オリンピズムの考え方を噛み砕いて説明し、生きていく上で大切な価値観としてオリンピックバリューを紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックバリューについて、エクセレンス＝素晴らしいこと、優れていること、フレンドシップ＝夢の共有、リスペクト＝尊敬すること、感謝すること説明。
- ・オリンピックバリューはオリンピックに出場した人だけのものではなく、みんなの日常生活の中にもあると話す。

3. グループワーク



発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：最後まで諦めず全力で取り組む、楽しむ、失敗の原因を見つける、目標を達成する

フレンドシップ：仲間を信じる、声を掛け合って全員で協力する

リスペクト：いいプレーを称える、人の意見を聞く

4. まとめ



- ・日常生活のどんなに些細なことでもオリンピックバリューを感じることができるので、今後も様々なことに挑戦する中でバリューを大切に、成長してほしいと伝える。



- ・東京2020大会以降もオリンピックは続いていくが、まずは東京大会に選手として、ボランティアとして携わって間近でオリンピックバリューを感じてほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成28年3月9日 (水)
- ク ラ ス : 2年1組 (39名)
- オリンピック : 伊藤 華英 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ: 運動の時間 (4時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・伊藤先生から簡単な自己紹介をした後、「何事にも一生懸命取り組むこと、みんなで協力すること」の2つを約束。
- ・オリンピックシンボルの意味について説明。

3. 主運動



- ①八の字跳び (90秒×3回戦)
- ・3チームに分かれて、90秒間に連続して跳ぶことができた回数を競う。
 - ・各回終了後に作戦タイムを設ける。

2. 準備体操



- ・両手間隔に広がって準備体操をした後、バスケットボールを用いたウォーミングアップを実施。



- ②大縄跳び
- ・クラス全員で大縄跳びに挑戦。

4. まとめ



- ・クラス全員仲が良く、一生懸命取り組んだことに大きな拍手を送った。



- ・ホワイトボードに貼ったオリンピックバリューを全員で音読み、意味を簡単に説明し、座学の時間では自分なりのオリンピックバリューについて一緒に考えよう伝え、時間終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（平成28年3月9日（水）5限目）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認



・北京大会、ロンドン大会の写真を見ながら、当時の心境等を紹介し、自分が頑張ることによって、人を応援したいという気持ちも生まれると話す。

2. オリンピックの価値を伝える



・オリンピックバリューについて説明し、伊藤先生の経験を話す。
 ・努力を重ね、自分の未来を自分で作ってほしいと伝え、「Be Positive, Be Humble」という言葉を贈った

3. グループワーク



発問：自分にとってのオリンピックバリューを考えてみよう。

発表：エクセレンス：部活や勉強に全力で取り組む、部活を休まない、努力を怠らない

フレンドシップ：友人を大切にする、クラス全員で団結する

リスペクト：先生や友人を尊敬する、お互いの力を認める

4. まとめ



・成功という結果ではなく、それまで努力した過程が大切であり、自分なりの成功を考え、それに向かって時間を大事にし、沢山の友人を作り、様々なことに挑戦し、失敗を積み重ねることにより成功へ辿り着くことが出来る話し、これからの人生が輝くことを祈っていると伝え、授業終了。

- 期 日 : 平成28年3月10日 (木)
- ク ラ ス : 2年2組 (37名)
- オリンピアン : 小谷 実可子 先生 (水泳・シンクロナイズドスイミング)
- 授業のながれ : 運動の時間 (4時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・楠田先生から簡単な自己紹介をした後、運動、座学の時間を通して、オリンピックやその価値について学ぼうと目的を確認。
- ・運動の時間では「シンクロすること」を意識してほしいと伝える。

2. 準備体操



- ・体育係が主導して、息を合わせて数をカウントしながら準備体操を実施。
- ・ペアストレッチを実施。

3. 主運動



- ・6班に分かれて1列に並び、約10m先のマーカーまで、小谷先生の指示に従って集団行動する。
- ・列を崩さずに動くために、作戦タイムを設け、話し合う。



4. まとめ



- ・今日の授業はシンクロ (同調) することを意識して体を動かしたが、普段何気なくやっていることも、みんなで協力したり息を合わせたりするとより楽しくなると話す。



- ・座学の時間では、小谷先生の経験を通してさらにオリンピックについて学ぼうと予告し、授業終了。



■授業のながれ：座学の時間（平成28年3月10日（木）5限目）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認



・オリンピックの歴史について説明し、オリンピック停戦について小谷先生が国連総会で呼びかけた経験を紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



・エクセレンス：つらく厳しい練習を耐え、オリンピックに出場したこと
 フレンドシップ：一緒につらい練習を乗り越えた仲間、ソウル大会で励ましあった他競技の選手
 リスペクト：オリンピックは多くの人に支えられて開催されていること

3. グループワーク



発問：自分にとってのオリンピックバリューを考えよう。

発表：エクセレンス：前向きに取り組む、最後まで諦めない

フレンドシップ：チームメイトと励ましあって取り組んだ、友人のアドバイスを聞き入れて努力する

リスペクト：先生の言葉で前向きになれた

4. まとめ



・2020年には、東京でオリンピックが開催されるので、様々な形で関わってほしいと話す。

・今日学んだことを忘れずに2年生の残りの時間を有意義に過ごし、新しい学年を迎えてほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成28年3月10日 (木)
- ク ラ ス : 2年3組 (40名)
- オリンピアン : 荻原 次晴 先生 (スキー・ノルディック複合)
- 授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・荻原先生から簡単に自己紹介をした後、パネルを用いて競技について説明。
- ・東京2020大会に触れ、4年後の自分やクラスメイトの姿を考えてみるのも楽しいと話す。

2. 準備体操



- ・スキップ・サイドステップ等を取り入れながら体育館をランニング。
- ・体育係が主導して準備体操を実施。

3. 主運動



- ハの字跳び (90秒×2回)
- ・3チームに分かれ、制限時間内に跳べた合計回数を競う。



- ・1チームずつ挑戦し、1回目終了後、60秒間の作戦タイムを取る。
- 荻原先生は各班を回りアドバイスを送る。

4. まとめ



- ・座学の時間ではオリンピックが大切にしている3つの価値について話すと予告し、一生懸命取り組んだ自分とチームの仲間に拍手し、握手をしてお互いの健闘を称えて、授業終了。





■授業のながれ：座学の時間（平成28年3月10日（金）6限目）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認



- ・映像を見せながら、競技と双子の兄健司氏について紹介。
- ・オリンピックを目指すようになったきっかけを話す。

2. オリンピックの価値を伝える



- ・バリューについて噛み砕いて説明し、このオリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、普段は意識していないが、改めて考えるとみんなも実践できていることだと話す。

3. グループワーク



発問：日常生活の中でオリンピックバリューに当てはまることを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：目標を達成すること、試合で勝ったこと、練習をがんばったこと フレンドシップ：一緒にスポーツや勉強に取り組む、お互いに励ましあう
 リスペクト：先輩や両親に敬意を払う、あいさつをする、丁寧な言葉遣いをする、親しき仲にも礼儀あり、感謝の言葉を伝える

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけの特別なものではなく、みんなの心の中にも存在していて、オリンピックが伝えたいことは決して難しいことではないと伝える。
- ・目標の達成に向けて「がんばること」がポイントになるため、結果を出す過程で意識してオリンピックバリューを実践してほしいと伝える。
- ・時にはつらいことや嫌だと思ふこともあるけれど、いつか必ずよかったと思えるようになるので、好きなことをとことん突き詰めてやってほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成28年3月13日 (日)
- ク ラ ス : 2年4組 (39名)
- オリンピック : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー・スノーボード)
- 授業のながれ: 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・鶴岡先生から簡単な自己紹介をした後、今日の授業では「オリンピックを探ってみよう」と目的を確認。
- ・「全力で取り組むこと、仲間と協力すること、話をよく聞いてルールを守ること」の3つを約束。

2. 準備体操



- ・両手間隔に広がって準備体操を実施。
- ・3チームに分かれて鬼ごっこを実施。

3. 主運動



- ①八の字跳び (90秒×3回戦)
- ・90秒間で連続して跳べた回数を競う。
 - ・各回終了ごとに各チームから回数と工夫した点を発表。



- ②人間知恵の輪 (20秒)
- ・全員内向きで手をつないで輪になり、制限時間内に手を離さずに全員外向きになる。

4. まとめ



- ・授業冒頭の約束を振り返り、3つとも実践できていたことを伝える。



- ・運動の時間に工夫したこと、感じたことを考えながら教室に戻って、次の座学の時間ではオリンピックについて考えてみよう予告し、授業終了。



■授業のながれ：座学の時間（平成28年3月13日（日）2限目）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認



- ・座学の時間ではオリンピックと日常生活をつなげて考えてみようと話す。
- ・オリンピックのイメージを問いかけ、オリンピックと言うとテレビで放送されている競技大会をイメージしがちだが、オリンピック競技大会が開催される目的があり、オリンピックには願いが込められていると話す。

2. オリンピックの価値を伝える



- ・鶴岡先生にとつてのオリンピックバリューについて、自身の経験を交えながらエクセレンスは「夢中になること」、フレンドシップは「その気になる一言」、リスペクトは「ありがとうと思うこと、留意すること」と説明。
- ・運動の時間の3つの約束（全力で取り組むこと、仲間と協力すること、話をよく聞いてルールを守ること）もオリンピックバリューに当てはまることを伝える。

3. グループワーク



発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：目標に向かってがんばる、最後まで諦めずに一生懸命に取り組む

フレンドシップ：声を掛け合って協力した、仲間を信じる

リスペクト：苦手をカバーする、仲間感謝する、正々堂々戦った

4. まとめ



- ・オリンピックモットーやクーベルタンの言葉を引用しながら、勝敗は大きな影響力を持っているけれど、そこに向かうまでにとどだけ本気だったか、努力できたかが大切だと話す。

- ・これから多くの困難にぶつかることがあるかもしれないが、できた、できないよりも、その過程にとどだけ気持ちを入れたかが大切で、本気で一生懸命取り組んでいたなら、なりたい自分になれるはずだと伝える。今日話したオリンピックバリューを心に留めて、これからの人生の中で実践してほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成28年3月13日 (日)
- ク ラ ス : 2年5組 (38名)
- オリンピアン : 柴田 隆一 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (2時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・柴田先生から簡単な自己紹介をした後、運動、座学の時間を通してオリンピックバリューを感じてほしいと伝える。
- ・運動の時間はオリンピックバリューを意識しながら、「全力で取り組むこと、協力すること、ルールを守ること」の3つを約束。

2. 準備体操



- ・両手間隔に広がって準備体操を実施。
- ・たまご、ひよこ、にわたりのポーズを使った進化じゃんけんを実施。

3. 主運動



①ボール運びリレー (2回戦)

- ・3チームに分かれて2人1組になり、縄跳びを用いてボールを運びリレーを実施。15m程の間に3個置かれたマーカーを決められたルートで1周する。
- ・ゴールした順位で得点を加算する。

4. まとめ



- ・授業のはじめに確認した約束をきちんと守れたかを確認。

- ・座学の授業では、オリンピックの価値がみんなの生活にどう結びついているか改めて考えようと伝え、授業終了。



■授業のながれ：座学の時間（平成28年3月13日（日）3限目）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認



- ・座学の時間では、「オリンピックについて知ること、オリンピックバリューを共有すること、日常生活をよりよいものにすること」の3つを目的として確認。
- ・競技についての説明を交えながら自己紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックについて、クイズ形式で質問。
- ・オリンピックバリューについて噛み砕いて説明した後、日常にある例を挙げながらオリンピックバリューがオリンピックだけのものではないことを説明。

3. グループワーク



発問：これまでの中学校生活の中で感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：黒板を綺麗にして授業の環境を整える、委員会の仕事にしっかり取り組む

フレンドシップ：合唱コンクールでクラスみんなが協力して金賞を勝ちとった

リスペクト：審判への敬意、先生への感謝の気持ちを持つ

4. まとめ



- ・オリンピック競技大会に出場することは誰もが出来るわけではないが、オリンピックバリューは誰もが日常生活の中でも共有できるものであり、人生をよりよく生きる上で大切な価値観である。今日の授業をきっかけに、こうした考え方をもちながら、夢をつかみ取ってほしいと伝える。

- ・4年後の東京2020大会には選手として出場する人がいるかもしれないし、それ以外にも参加できる方法はある。どんな形であれ機会があれば関わってほしいと伝え、授業終了。